

平成27年度鳥取県農業農村担い手育成機構 事業報告

I 組織運営について

1. 総括

- (1) 農業・農村の担い手育成のため、就農相談、アグリスタート研修支援事業等による新規就農者の確保・育成等に関する就農支援業務の充実を図るとともに、農地中間管理事業等との一体的な運営を進めた。
- (2) 県から農地中間管理機構の指定を受けた法人として、地域の農地基盤の維持と将来を展望し得る担い手の育成を目的に、公募の地区毎に農地の集積を図ることとし、農地中間管理事業を推進した。

2. 組織体制の整備

- (1) 農地中間管理事業実施に向け、県が積み立てた鳥取県農業構造改革支援基金を財源に、体制を充実強化して事業を実施した。
- (2) 引き続き県からの3名の派遣を受けて、各地域と担い手農家のニーズに対し、主体的かつ機動的に対応した。
- (3) 新たに、中部担当の農地業務参与と鳥取・米子本部での事務処理補助員を増員配置し体制の強化を図った。
- (4) 機構業務は、一部を市町村・農業公社・JAへ委託することとし、引き続き中部と西部に現地駐在員を配置した他、新たに土地改良事業に関する相談対応を土地改良事業団体連合会に委託した。

II 担い手育成に関すること

1. 実績の総括

- ① 農地中間管理事業の本格稼働に伴い、就農相談、各種研修等担い手育成業務全般において、当該事業との一体的な運営を意識して業務を展開した。
- ② 新規就農者の定着、営農発展のサポートを総合的に実施する専門機関として、これまで培ったノウハウの維持と各市町村における担い手育成方針とタイアップしながら、「人・農地プラン」を踏まえて活動を展開した。
- ③ 難易度の高い担い手支援業務に携わる市町村、JA、農業改良普及所、農業大学校等の関係機関との連携と情報共有に努め、県全体の担い手支援スキルのボトムアップを意識して各事業に取り組んだ。
- ④ 指導農業士は、優れた技術と経営ノウハウを有し、各地域で農業農村の振興、新規就農者の育成等の面で指導的役割を果たしていることから、機構業務に連携して取り組んだ。

2. 就農相談活動

(1) 就農相談活動の全体実績

○就農相談員2名（富山文好（東・中部）、鹿島美彦（西部））を配置し、就農相談活動を実施した。

○相談件数は横ばいの状況であった。

<相談件数>

相談形態別						27年度計	26年度計
来庁	相談会	電話	Eメール	普及所	その他		
51件	142件	8件	3件	17件	1件	222件 (延べ297件)	210件 (延べ278件)
◎相談会の内訳							
大阪相談会（6・1月）			40人	鳥取相談会（4・8・11月）			7人
東京相談会（10・12月）			27人	倉吉相談会（5・9・12月）			8人
IJUターンBig相談会（大阪） （8・9・2月）			34人	米子相談会（6・10・2月）			8人
IJUターンBig相談会（東京） （7・1月）			16人	農大相談会（9・11月）			17人
地方の暮らしフェア（東京） （2月）			2人				

<相談の傾向>

- ・農業に関する基本情報収集を目的とした初期段階の相談：3割
- ・就農地、就農品目の絞り込み、自身の営農・生活イメージを固めるための相談：6割
- ・鳥取県での就農意思を固めた上での施策活用に関する具体的相談：1割

○今までの就農相談者のうち、平成27年度に新規就農等した者の状況

- ・農業研修を開始した者 23名（うちIターン者 5名）
- ・新規就農した者 18名（うちIターン者 10名）

<新規就農した者の概要>

	就農前住所	就農地	就農作目		就農前住所	就農地	就農作目
1	兵庫県 (Iターン)	鳥取市	果樹 (梨)	10	大阪府 (Iターン)	米子市	露地野菜 (白ネギ)
2	鳥取県	鳥取市	施設野菜 (キュウリ、トマト他)	11	大阪府 (Iターン)	米子市	露地野菜 (白ネギ)
3	千葉県 (Iターン)	鳥取市	果樹・露地野菜 (梨、白ネギ)	12	鳥根県 (Iターン)	米子市	露地野菜 (白ネギ)
4	大阪府 (Iターン)	鳥取市	露地・施設野菜 (白ネギ、トマト)	13	東京都	境港市	露地野菜 (白ネギ)
5	鳥取県	倉吉市	施設野菜 (トマト)	14	鳥取県	南部町	果樹 (梨)
6	静岡県 (Iターン)	倉吉市	施設野菜 (スイカ、かぶ他)	15	大阪府 (Iターン)	大山町	露地野菜 (白ネギ、ブロッコリー)
7	鳥取県	倉吉市	露地野菜 (白ネギ)	16	鳥取県	伯耆町	露地野菜 (有機栽培)
8	京都府 (Iターン)	北栄町	露地野菜 (白ネギ他)	17	鳥取県	境港市	露地野菜 (白ネギ)
9	大阪府 (Iターン)	琴浦町	露地・施設野菜 (ブロッコリー、スイカ他)	18	鳥取県	境港市	露地野菜 (白ネギ)

(2) プレ視察研修・体験の推進

①就農支援情報の発信

○就農までの流れや各種支援策を掲載したパンフレットを作成・配布した。

- ・ 作成部数： 5,800 部
- ・ 配布部数：約 4,000 部（約 1,800 部は機構保有し、相談会等での対応時に配布）

<主な配布先>

市町村、県関係機関（総合事務所、県外事務所、農業大学校等）、JA、農業高校等

②農業視察研修の実施

○鳥取県での就農希望者を対象に、県内新規就農者の経営視察研修を2回開催した。

○就農までの準備や苦勞、現在の経営状況等について、先輩農家から経験談として直接聞くことができ、参加者からは、今後の就農準備や検討の視点として大変参考になったとの声が高く、好評であった。

○参加者のうち、11名が平成27年度中に農業研修を開始し、就農への1歩を踏み出した。

<開催状況>

- ・ 中部地区視察研修 (H27.9.19, 20) 19名参加
- ・ 西部地区視察研修 (H28.3.13) 21名参加

3. 新規就農者等研修事業

(1) 鳥取へ I J U! アグリスタート研修事業

○県内での就農希望者を農業研修生として機構が雇用し、先進農家を受入先とした実践技術、経営ノウハウ習得のための現地研修を実施することにより、円滑な新規就農者の確保、早期育成を図った。

ア 8期生の修了

- ・ 9名採用のうち、7名が修了となった。うち1名が追加研修を実施中。

イ 9期生の採用

- ・ 研修生の採用にあたっては、鳥取で就農する必然性を重視。特に県外者については、鳥取に縁のある者（Uターン者、鳥取に親戚・知人がいるIターン者等）の採用により、定着率の向上に確実に繋がっている。
- ・ 9期生から「原則アグリチャレンジ研修の受講」を要件として募集を行った。応募総数は6名で採用は4名とした。うち2名がアグリチャレンジ研修受講生であり、1名は鳥取大学院生、1名は農大研修生であった。

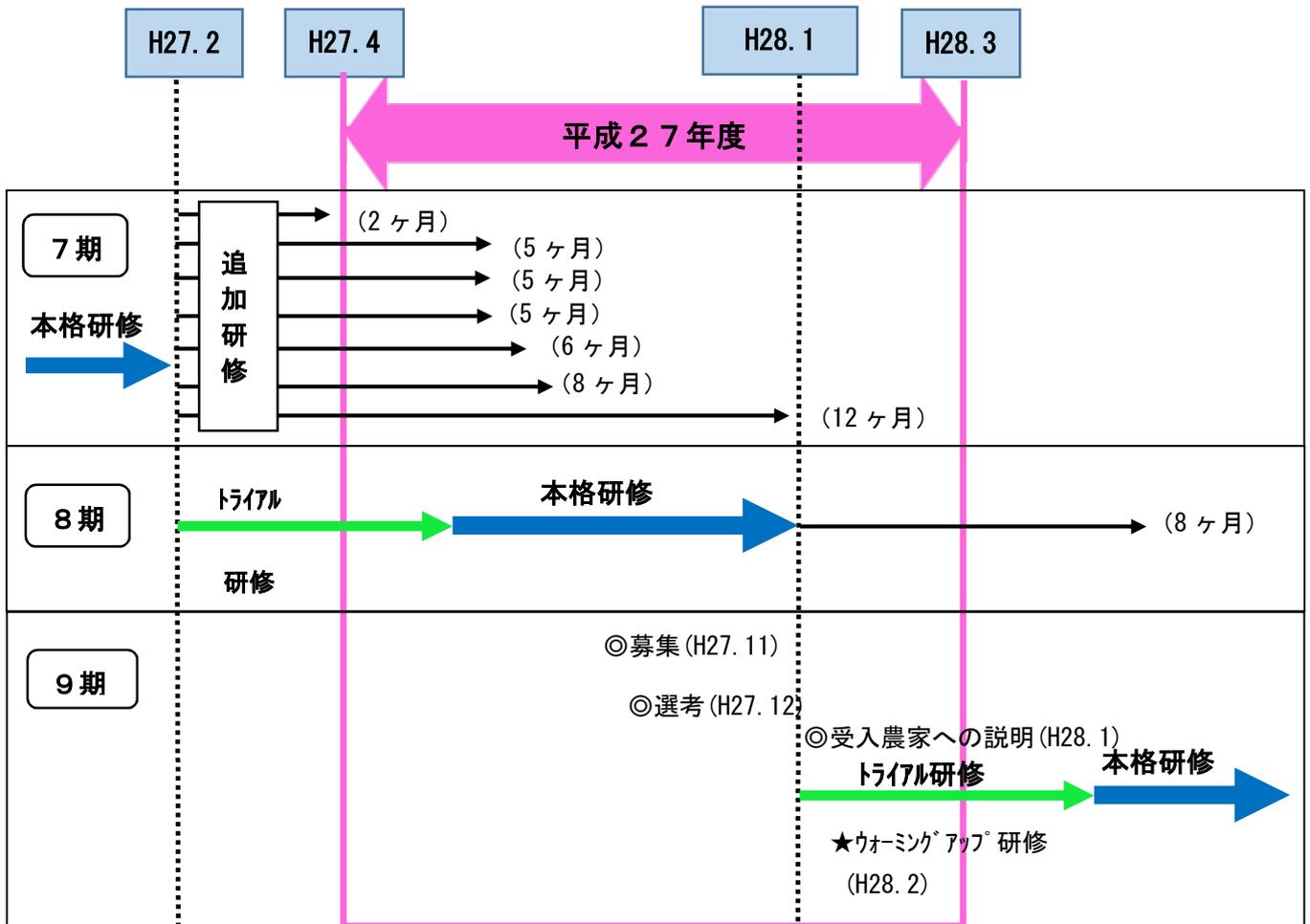
品目：梨、イチゴ、ブロッコリー、メロン

○研修開始時に2泊3日でウォーミングアップ研修を実施し、農を志す者の心構え、土壌と気象条件を考慮した適地適作、土づくり・施肥の基礎、農薬の取扱い基礎等、受入農家での実践研修に備えた必須カリキュラムで構成。アグリチャレンジ研修の受講が要件となり基礎的知識は研修済みであることから、研修受講の動機づけ、研修終了後の就農の具体的なイメージが描けるよう実施した。

○1年間の研修では独立就農のための技術習得が不十分な研修生に対し、追加研修を実施した。

- ・ 第7期追加研修生：7名（**品目** 梨、スイカ、キャベツ、白ねぎ）
- ・ 第8期追加研修生：1名（**品目** 梨）

① 平成 27 年度における実施研修



② これまでの研修実施状況

	採用者数 (A)		卒業数	就農者数 (B)		全体定着率 (B/A*100)
		うち IJU ターン			うち IJU ターン	
第 1 期 (H21. 9~H22. 8)	15	8 (60%)	12	8	3	20%
第 2 期 (H22. 4~H23. 3)	15	13 (87%)	11	9	7	47%
第 3 期 (H22. 9~H23. 8)	9	9 (100%)	8	8	3	33%
第 4 期 (H23. 2~H24. 1)	10	6 (60%)	9	5	8	80%
第 5 期 (H24. 2~H25. 1)	17	10 (56%)	17	10	16	94%
第 6 期 (H25. 2~H26. 1)	20	14 (70%)	19	14	18	95%
第 7 期 (H26. 2~H27. 1)	18	11 (61%)	18	11	18	100%

	採用者数 (A)		卒業数		就農者数 (B)		全体定着率 (B/A*100)
		うち IJUターン		うち IJUターン		うち IJUターン	
第8期 (H27.2~H28.1)	9	4 (44%)	7	4	7	4	78%
第9期 (H28.2~H29.1)	4	3 (75%)	—	—	—	—	—
合計	117	78 (67%)	101	69	80	54	71%

③ 平成27年度の研修実績

項目	内容	予算額 (円)	実績額 (円)
		7期追加: 7名 8期本格: 10名 8期追加: 5名 9期トライアル: 20名	7期追加: 7名 8期本格: 9名 8期追加: 1名 9期トライアル: 2名
1 研修生への 手当	研修生雇用支援事業 <1人当りの事業費> 本格研修及び追加研修 ア 給与 H27.9まで 120,000円/月 H27.10以降 122,000円/月 イ 住居手当等(上限) 33,000円/月 ウ 労働保険,社会保険 H27.9まで 25,695円/月 H27.10以降 26,477円/月 エ 赴任旅費(定額) 20,000円/人 オ 定住準備金(上限) 99,000円/人	35,038,000	17,780,038
2 受入農場研 修指導員の 設置	研修指導員設置事業 先進農家等の受入先に「研修指導員」を設置し、農 業研修生の農業技術習得のための体制を整備 受入農場研修指導員への謝金定額 40,000円/人/月	7,320,000	4,480,000
3 農大研修の 実施	農業大学校サポート研修費助成事業 独立して就農、生活していくために必要な知識、ノ ウハウを得るための集合研修(各受入先での実践研 修の補完)を実施 ○ アグリスタートサポート研修(1日×1回、1泊2 日×2回) ・市町村公社が実施する研修制度の研修生も参 集の上実施 ・主なカリキュラム 就農への心構え、農地確保の進め方、就農計 画作成の進め方、経営者セミナー(先輩農家 による講話)、サバイバル料理教室 ○ 大型農業機械研修(講習:5日間、検定)	219,000	80,424
合計		42,577,000	22,340,462

4	研修支援員の設置	<p>機構に研修支援員2名を配置し、研修生に寄り添い研修指導員をサポートしながら研修実施上の課題、就農に向けての問題解決を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研修指導員、関係機関との調整 ○ 研修生の課題解決への助言 ○ 研修カリキュラム全体の企画立案等 ○ 集合研修の運営 	機構運営費(農地・担い手業務推進費)へ計上
---	----------	---	-----------------------

(2) 鎌、鍬等技能の基礎研修

- アグリスタート研修生を対象に、農作業に必須となる基本的農機具の使い方、技能訓練として1回実施した。
- 琴浦町別所の機構が中間管理しているほ場を会場に、草刈機の使い方(体の使い方)等を研修の上、草刈り選手権大会を開催。

(3) 機構保有地活用就農自立促進研修事業

- アグリスタート研修生3名を対象に、機構が農地中間管理事業によって借り入れた農地を活用し実践的な研修を行い、研修生の就農と自立を支援した。
- 実践研修に必要な種苗費、農薬費、肥料費、施設・機械借入料等について、機構が立替払いを行い、研修終了時に研修生からの精算払を受けるもの。

<事業の実施状況>

① アグリスタート研修7期 中村 泰之氏

- ・白ねぎでの就農を目指し米子市伯仙地区にて追加研修を6月末まで実施。
- ・米子市春日地内の約60a、7筆の農地を就農予定の一部として機構が確保し、全農地を本人へ権利設定

②アグリスタート研修7期 久保田 幹二氏

- ・白ねぎでの就農を目指し米子市河崎地区で追加研修を6月末まで実施。
- ・米子市彦名干拓地内の約90a 3筆の農地を就農予定の一部として機構が確保し、全農地を本人へ権利設定。

③アグリスタート研修8期 仲田洋平氏

- ・果樹(梨・柿)での就農を目指し米子市別所にて28年9月まで追加研修を実施中。
- ・米子市別所地内のゴールド二十世紀梨11aを就農予定地の一部として機構が確保するとともに、米子市別所地内の水田30a 2筆をジョイント梨用、畑地25a 輝太郎柿用に機構が確保。

4. 就農支援資金貸付事業

(1) 就農支援資金貸付事業

認定就農者に対する就農支援資金(就農研修資金)貸付制度を運用。平成26年度の国の制度改正により、既貸付金の資金管理のみ実施。

区 分	就農支援資金		備 考
	件数	金額(千円)	
前年度末貸付残高	54	15,473	
本年度実績	新規貸付	0	0
	貸付金償還額	30	1,247
	償還免除額	40	2,999
本年度末貸付残高	34	11,227	

※ H7～25年度の貸付累計 275件 317,000千円

(2) 就農支援資金償還免除事業

就農支援資金(就農研修資金)を借受け後、一定期間(5年以上)就農した者の償還金の猶予及び免除を実施した。

区 分	就農支援資金		備 考
	人数	金額(千円)	
前年度末猶予額	24	3,049	
本年度実績	新規猶予額	16	1,482
	償還免除額	23	2,999
	補助金返還額	1	50
本年度末猶予額	16	1,482	

5. 青年就農給付金(準備型)給付業務

○県が認める研修機関(市町村公社等)又は県立農業大学校で研修を受ける農業研修生(就農予定が45歳未満に限る)17名に対し、機構が給付機関となり、研修期間中年間150万円を給付。

○給付要件に照らした審査のみならず、申請者本人の就農の実現に向けたアドバイスを実施。

<H27 給付実績>

研修機関	給付者	給付金額(千円)	給付者の進路
県立農業大学校	14名	20,250	独立就農:3名 法人就業:3名 アグリスタート研修へ:1名 引き続き準備型研修:7名
(財)鳥取市ふるさと農業公社	3名	3,750	独立就農:3名
合計	17名	24,000	

※研修期間の設定によって、1ヶ月分(125,000円)を減額して給付している者がある。

<実施業務>

① 研修計画審査会の開催

給付希望者から提出される研修計画書をもとに、就農の実現性を審査するため、面接審査会を開催した（6月17日、2月3日）。

<審査員の構成>

- ・担い手育成機構 上場理事長（審査委員長）、浅見課長
（独立就農予定の者）
- ・就農地の市町村、農業改良普及所、JA営農センターの新規就農支援担当者
（雇用就農予定の者）
- ・鳥取県農林水産部経営支援課、鳥取県農業会議の担当者

② 研修実施状況の確認

○研修実施状況報告を受け、研修生及び研修指導者との面談を実施。技術の習得状況、就農に向けた準備状況等を確認した。

③ 就農報告、就農状況報告の確認

○研修を終了し就農した者より、就農報告及び半年毎の就農状況報告を受け、就農市町村等との連携により実情を確認した。

6. 初期営農農機具等支援事業

○JA、アグリスタート受入農家等から、規模縮小農家等の譲渡可能な中古機械等の情報提供を得て、新規就農者への提供等を実施した。

<H27年度の中古農機具等情報取扱実績>

	中古農機具等名	確保時期	提供農家	活用の状況等
①	パイプハウス(6.0m×50m×2棟)	H27.4	出雲市業者	アグリスタート研修修了生へ提供
②	管理機	H27.4	米子市農家	アグリスタート研修修了生へ提供
③	管理機	H27.4	米子市農家	アグリスタート研修修了生へ提供
④	トラクター(18ps)	H27.6	米子市農家	アグリスタート研修修了生へ貸与
⑤	トラクター(19ps)	H27.7	米子市農家	アグリスタート研修修了生へ貸与
⑥	トラクター(16ps)	H27.9	鳥取市農家	アグリスタート研修修了生へ貸与
⑦	トラクター(25ps)	H27.11	琴浦町農家	アグリスタート研修修了生へ提供

(参考) 年度別取得実績

(金額単位：千円)

区分	平成26年度				平成27年度				年度末保有数	
	買入		売渡		買入れ		売渡			
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
パイプハウス	22棟	4,126	16棟	5,980	2棟	2,880	6棟	4,757	2棟	1,150
トラクター	3台	752	0台	0	4台	2,380	1台	1,700	6台	1,432
管理機					4台	0	0	0	4台	0
その他	5台	0	5台	0					0台	0

7. 組織活動促進事業

(1) 青年農業者等研究活動支援事業

○新規就農者の早期経営安定を図るため、新規就農者の自主的研究活動に助成した。

<H27 助成実績>

氏名等	内容	担当普及所	事業費
未来へつなぐらっきょう将来ビジョン研究会 (鳥取市福部町 中山健、松永純一、浜本秀和、森本佳佑の4名によるグループ申請)	アグリフードエキスポ in 大阪(大阪市)およびピーコックストア千里中央店を視察し、らっきょう及びその加工品等の消費者ニーズ、他産地の取組みを視察。 成果は、らっきょう生産部の生産振興大会で報告予定。	鳥取普及所	23,284 円
河本 祐介及び濱田 楓雅 (北栄町)	東京都で開催されたヤングスイカサミット2015へ参加し、全国の産地の若手と意見交換、情報交換を実施。産地ぐるみで取り組み、来年度ヤングスイカサミットの開催地が北栄町となった。	東伯普及所	92,776 円

(2) 新規就農者グループ活動促進事業

○新規就農者がグループを結成し、就農後の情報交換や資質の向上を図る活動に助成した。

<H27 助成実績>

グループ名	助成額	概要
弓浜白ねぎ若手研究会(米子市)	50,000 円	①新規就農者 11 名、若手農業者 2 名、担い手 2 名、指導農業士 1 名、関係機関 14 名の参加(H27.9.10 開催) ②西部普及所が企画運営し、白ねぎ栽培に関する情報交換会という形式で実施。 ③情報交換が盛り上がり、出席者の顔写真、連絡先、圃場位置などを会場で収集、後日配布。相互の情報交換に活用。
日吉津若手農業者の会 (日吉津村)	50,000 円	①新規就農者 7 名、先輩農業者 5 名、関係機関 17 名の参加(H27.12.22 開催) ②新規就農者の圃場を巡回し、新規就農者が説明。先輩から質問、アドバイスを受ける形で実施。 ③生産者間の繋がり、各生産者が抱えている問題を共有するきっかけとなった。 ④地元 CATV でも放映され、地域内での新規就農者の認知にも貢献。
気高地域これからの農業を考える会(鳥取市)	50,000 円	①新規就農者 10 名、担い手 2 名、関係機関 4 名の参加(H28.1.22 開催) ②懇親会で相互の親睦と情報交換を行った。 ③今後の進め方を模索中。
河原地域の農業振興を語る会 (鳥取市)	50,000 円	①新規就農者 6 名、担い手 6 名、関係機関 16 名の参加(H28.1.29 開催) ②意見交換では、担い手の発言がメインとなってしまった。新規就農者からの不満の声に対し関係機関が答えられない場面もあった。 ③会の進め方等についての準備が不足していた。

(3) 農村青年会議活動促進事業

○農村青年会議等が行う青年農業者の資質向上や会員相互の連携と団結を図る活動に助成した。

<H27 助成実績>

区 分	助成額(円)	活 動 内 容
中部農村青年連合(13名)	100,000	夏・冬のとどい、研修会の開催、中四国大会へ会員の派遣等(米子市、徳島県)
米子地区農村青年会議連絡協議会(19名)	24,398	中四国大会への会員の派遣(徳島県)等
鳥取県農村青年会議連絡協議会(18名)	91,560	夏のとどい、全国段階の研修会等への会員の派遣
3協議会計	215,958	

(4) 担い手グループとの連絡調整活動

機構の活動対象である担い手農家の経営状況やニーズを把握の上、今後の業務展開に活かすため、担い手農家により構成されるグループ活動に参加した。

<H27 実績>

グループの名称	内容
西部水田経営者会議(23経営体)	構成員として総会参加(H28.1)
西部地区集落営農法人連絡協議会(11法人)	総会、研修会(H28.2)の参加と運営支援
鳥取県農業法人協会(14法人)	構成員として総会参加(H28.3)

8. 担い手支援スキルアップ研修事業

担い手支援に関わる者が、現場の課題に学び、互いのスキルアップを図ることを目的に、県と連携して農業農村担い手育成研究大会(サマーキャンプ in 農大)を開催した。

<開催概要>

ア 第3回 研究会

農業大学校との連携をテーマとして、農業大学校を会場に開催した。

機構理事 野口信一氏に事例発表いただくとともに、機構理事 福田昌治氏、杉川一二美氏も参加され、積極的に発言いただいた。

研究会の実施概要を冊子にとりまとめ、市町村、JA 等関係機関へ配布し、参加していない者等との情報共有を図った。

- ① 開催日:平成27年9月3日~4日
- ② 会 場:鳥取県立農業大学校(倉吉市関金町)
- ③ 参加者:89名(県農林水産部関係課、普及所、農林局農業振興課、農業大学校、JA、市町村、農業高校、機構理事、農業士 等)
- ④ 内 容
 - i) 新規就農者、教育研修機関、関係機関等からの事例報告
 - ii) 分科会

イ 第4回 研究会

果樹における新規就農者の事例から課題と支援のあり方が見えてきたため、果樹における新規就農支援の進め方について、果樹担当の普及員、試験場研究員等で事例研究を行った。

また、研究会実施後、果樹特技普及員等で現地ほ場を巡回し、就農地の確保の経緯、技術習得の方法、就農後の果樹園の育成方法等についての事例研究を行った。

引き続き、果樹での新規就農支援の在り方を検討していく。

- ① 日 時:平成28年3月1日(火) 午後1時30分～午後5時
- ② 会 場:鳥取県園芸試験場(北栄町由良宿)
- ③ 参加者: 64名(県農林水産部関係課、普及所、農林局農業振興課、農大、鳥取大学)
- ④ 内 容:アグリスタート研修生及び親元就農の事例研究

9. 指導農業士との連携事業

○指導農業士活動バックアップ事業(助成額:50,000円)により、直接的に農業士活動を支援した。

○平成27年11月5～6日に開催された、中国四国地域農業士研究会の開催を支援するとともに、上場理事長が講演を行った。

アグリスタート研修生の概要

(1) 第8期生（研修期間：H27年2月～H28年1月）

採用者9名、研修修了者7名、追加研修受講中1名

研修生	研修前住所	IUターンの別	研修地	受入農家	就農地 (就農予定地)	研修修了後の状況等	研修後の 評価
竹本 正二郎 (38)	県内（北栄町）	-	鳥取市河原町	漆原 修	鳥取市	認定新規就農者（施設野菜(トマト、キュウリ他)）	◎
前田 英樹 (32)	県内（倉吉市）	-	倉吉市	(株)アグリテール大黒	倉吉市	認定新規就農者（白ねぎ）	○
實藤 光 (36)	大阪府	Iターン	琴浦町	寺岡 昌一	琴浦町	認定新規就農者（スイカ、白ねぎ、ブロッコリー）	◎
仲田 洋平 (41)	兵庫県	Uターン	米子市	樋口 洋	南部町	H28.9 末まで追加研修（梨）	◎
佐久川 武志 (46)	県内（境港市）	Iターン	境港市	河岡 年行	境港市	認定新規就農者（白ねぎ）	○
柏木 雄太 (26)	県内（境港市）	-	境港市	松本 朗治	境港市	研修受入農家へ雇用就農	○
三好 裕之 (49)	大阪府	Iターン	大山町	大場 繁	大山町	認定新規就農者（ブロッコリー、白ねぎ）	○

※研修後の評価 ◎：経営発展が期待できる ○：継続して支援が必要 △：課題有り

(2) 第9期生（研修期間：H28年2月～H29年1月）

採用者4名

研修生	研修前住所	IUターンの別	研修地	受入農家	研修品目	現在の評価	備考
唐崎 大義 (24)	県内（鳥取市）	Iターン	湯梨浜町	山下 幸人	梨		H28.4 採用
河村 隼佑 (26)	奈良県	Iターン	湯梨浜町	小林 孝拓	イチゴ		H28.4 採用
露木 和美 (39)	県内（大山町）	-	大山町	林原 博寿	ブロッコリー		
高見 滋 (30)	県内（大山町）	Uターン	大山町	齋藤 伸一	ブロッコリー他		

※現在の評価 ○：有望

Ⅲ 農地業務に関すること

1. 農地中間管理事業

(1) 実績の総括

- ① 試行錯誤のなかで2年間事業に取組み、全市町村で農地中間管理事業による権利設定を行い、取り扱い面積も増加しつつあるなど取組みは浸透してきた。
- ② その中で、取組みが進みつつある市町村と進んでいない市町村が明確になり、担当者の農地中間管理事業への認識不足も問題点として明らかになった。
- ③ また、事業推進により集落営農の法人化には一定の寄与がみられたが、多様な担い手の育成、経営の発展など人・農地の問題解決のため、各地域での話し合いが十分になされる事が必要である。
- ④ さらに、国が掲げる担い手への新規集積目標は、県全体実績ではほぼ達成されたが、基盤法による取り扱いが多く、事業の趣旨やメリットを十分に広め、基盤法による貸借を農地中間管理事業へ移行させる事が重要である。

(2) H26・27年度の農地中間管理事業の実施状況

ア 担い手の公募と農地の貸付け状況

- ① H26年度から126の区域に分けて借受け希望者の公募を実施。
- ② 741経営体、3,528haの応募があり、281経営体、1,126haの貸付けを実施。

[応募状況]

	応募者数	借受希望面積
H26年度	578経営体	3,024ha
H27年度	163経営体	504ha
累計	741経営体	3,528ha

イ 農地中間管理事業での貸借の実施状況

(単位：ha)

年度	年間集積目標	借入		貸付		内新規貸付面積
		件数	面積	件数	面積	
H26年度	1,100	1,450	663	77	413	112
H27年度	1,090	1,504	618	492	713	301
合計	2,190	2,954	1,281	569	1,126	413

※ 件数は契約件数のカウントで経営体は重複している。

ウ H27年度の農地中間管理事業以外の方法を含めた農地の貸付状況

(単位：ha)

機構の貸付		基盤法の貸付		農地法の貸付		合計	
	内新規		内新規		内新規		内新規
713	301	1,873	735	4	3	2,590	1,039

- ① 基盤法に基づく貸付けが約7割を占めており、農地中間管理事業への移行が必要。
- ② 農業会議から年2回送付される更新の案内通知の見直しや担い手へメリット等を丁寧に説明し農地中間管理事業への移行を進める。

(3) 事業推進のための取組

ア 事業の推進体制の整備

中間管理事業の業務の一部を全市町村、3JA、市町村公社、水土里ネットへ委託し、農業委員会との連携も要請した。

イ H27年度借受け希望者の公募

① 全市町村、各JAに受け付け窓口を設置し、5月から3月までに借受け希望者を3回公募した。

i) H27年5月11日～H27年6月12日：件数 20件、面積 42.6ha

ii) H27年7月27日～H27年8月28日：件数 43件、面積 103.5ha

iii) H27年12月7日～H28年3月28日：件数 100件、面積 358.5ha

② 借受け希望農家の内訳

i) 認定農業者 53 経営体

ii) 認定新規就農者 25 経営体（内9経営体が研修中）

iii) 基本構想到達者 8 経営体

iv) その他 77 経営体

ウ 関係機関との連携

① 理事長が、県農林水産部部長次長と連絡調整会議を実施した。

また、農林局長会議、普及所長会議、農大校長会議へ出席、試験場職員、普及員の研修で講話を行うなど活動の共有を行った。

さらに、耕地関係職員の研修、若手職員懇談会を行い情報の共有を図った。

② 理事長が、全市町村長を訪問し、担い手育成、農地、地域政策、地方創生などについて意見交換し、担当者レベルでのヒアリングを実施した。

③ 理事長が県農業会議の主催する全ての会議に出席し活動の共有を行い、市町村農業委員会の研修会で講話を行った。

④ 理事長が土地改良区役員会研修会において、土地改良事業と農地中間管理事業の連携の重要性について講演し、参加者の理解を求めた。

⑤ 人と農地の問題に関係する、機構、農業会議、水土里ネットのトップ連絡会を実施し、3団体の連携方法等について具体的に協議した。

エ 広報活動

① 理事長が、4月にBSSラジオに出演し事業の普及を行った。

② 理事長が、県西部で自民党幹部の現地研究会を行った。

③ 12月に先進事例を紹介し集落での話し合いを推進するための番組をCAVT各局で放映した。

④ CAVTの放送内容をDVDにして市町村等関係機関に配布し、集落座談会等で活用した。

オ 機構内部の運営

① 鳥取本部、米子本部で週1回のペースで内部会議を行い、隘路を把握して方針を決定し行動した。

② 農地チームと担い手チームで随時打合せを行い、人と農地の一体的な事業の取組みを徹底した。

(4) 農地中間管理業務費

ア 機構職員人件費及び事務費 【実績額 45,226 千円(国庫 41,575 千円、機構 3,651 千円)】
 予算額 39,340 千円(国庫 35,340 千円、機構 4,000 千円)

No.	項目	内 容	金額(千円)
1	人件費	機構職員の人件費。(13名) 県派遣2名(鳥取本部、米子本部)	31,849
2	事務費	公募による借受け希望者の募集 農用地利用配分計画の作成 農業者及び農地のデータ管理	13,377
合計			45,226

イ 業務委託費 【実績額 31,826 千円】
 予算額 83,277 千円

- ① J A 中央、J A 西部には、機構駐在員、駐在事務所を設置。
- ② 各委託先には相談窓口を設置し、農業者との契約の調整及び調整、利用配分計画案の作成等を実施した。
- ③ 水土里ネットと連携し、基盤整備要望の要望聞取りを行った。また、利用意向調査で機構へ貸出し希望のあった農地の図面作成を委託し、現地調査に活用した。

名 称	委託費 円	名 称	委託費 円	名 称	委託費 円
鳥取市	29,147	米子市	1,724,000	J A いなば	20,000
岩美町	151,194	境港市	114,191	J A 中央	2,996,000
八頭町	510,000	大山町	380,000	J A 西部	5,267,102
若桜町	42,828	日吉津村	673,852	J A 合計	8,283,102 円
智頭町	16,400	伯耆町	190,000	鳥取公社	215,657
倉吉市	2,400,000	南部町	113,037	岩美公社	3,700,000
湯梨浜町	1,230,653	江府町	936,215	公社合計	3,915,657 円
三朝町	1,848,356	日野町	300,000	水土里ネット	4,000,000
北栄町	3,110,000	日南町	1,476,981		
琴浦町	380,000				
市町村合計	19 市町村	15,626,854 円		総計	31,825,613 円

ウ 借受農地管理等事業費 【実績額 1,194 千円】
 予算額 196,065 千円
 市町村の申出を受け中間管理が必要と機構で判断した農地について保全管理を行った。

- ① 借賃の支払：借入面積 31,622 m²、借賃 168,882 円
- ② 耕耘・草刈り等保全管理：53,514 m²、保全管理費 1,025,294 円

エ 貸し借りの実績

- ① 農地中間管理権取得実績(借入) 1,504 人 617.8ha
- ② 農用地利用配分実績(貸付) 225 経営体 712.6ha
- ③ 智頭町を除く全ての市町村で実績があった。

※ 詳細は報告事項を参照

2. 特例事業

- ① **売買** 農業経営基盤強化促進法の特例事業として、農地中間管理事業と連携し実施した。
- ② **貸借** H25年度以前に合理化事業で貸借した事案は、特例事業で実施した。

予算額 2,469 千円（国庫 1,086 千円、県単独 300 千円、機構 1,089 千円）

(1) 特例事業業務費【実績額 1,818 千円、国庫 1,080 千円、県単独 300 千円、機構 438 千円】

No.	項目	内 容	金額(千円)
1	人件費	機構職員の人件費。(2名)	1,066
2	事務費	契約書類整備。 土地代金の受入、支払い業務。 農業者及び農地のデータ管理。	752
合計			1,818

(2) 売買実績

ア 市町村毎の売買事業実施状況

(買入実績)

市町村名	地権者数 (人)	面積 (ha)
1 鳥取市	4	0.7
2 倉吉市	1	1.1
3 琴浦町	2	0.4
4 米子市	3	1.8
5 境港市	1	0.3
6 大山町	9	4.3
合計 6市町	20	8.6

(売渡実績)

市町村名	耕作者数 (人)	面積 (ha)
1 鳥取市	5	0.7
2 倉吉市	2	1.3
3 三朝町	1	0.7
4 琴浦町	2	0.3
5 米子市	3	1.9
6 境港市	1	0.3
7 大山町	10	4.7
8 日野町	1	0.3
合計 8市町	25	10.2

イ 6市町で農地の買入を、8市町で売渡しを実施した。

- ① 鳥取市、琴浦町、大山町は、主に農業委員会事務局が調整し事業を実施した。
- ② 倉吉市、米子市、日野町は、担い手農家から直接機構へ相談があり、事業を実施した。
- ③ 米子市は、アグリ研修生の就農地を機構が利用調整した。
- ④ 県保有干拓地で、機構が仲介し事業を実施した。

ウ 地目別農地買入人数及び面積について

- ① 田：10人、338a
- ② 畑：10人、528a

エ 農地の買入単価について

- ① 平均 393 千円/10a（田：370 千円/10a、畑：416 千円）
- ② 最高単価 1,224 千円/10a（鳥取市福部町、畑、認定農家者へ売渡し）
- ③ 最低価格 83 千円/10a（大山町安原、畑、認定農業者へ売渡し）

オ 年度末保有状況

区分	前年度末保有量			本年度買入			本年度売渡			本年度末保有量		
	件数 (人)	面積 (ha)	金額 (千円)									
国庫事業	14	5.3	14,910	13	5.9	18,645	(21)		(24,154)	6	3.6	9,401
単県事業	1	0.1	318	7	2.7	11,339	(6)		(9,157)	1	0.2	2,500
合計	15	5.4	15,228	20	8.6	29,984	(27)		(33,311)	7	3.8	11,901

※ 売渡欄の()は、買入時件数及び買入価格である。

年度末保有量は、売渡し相手方が決まっており、本年度売渡しを行わなかったもの。

- ※事業区分
- 国庫事業 (全国協会の無利息融資資金で対応。) 認定農業者が売買により農地集積を行った場合を支援した。
 - 単県事業 (県信連より農地買入資金を借入れ対応。借入利息は農家負担。) 国庫事業に該当しない農家が、事業介入が必要な案件で支援を行った。

キ 売買実績の推移

区分	24年度			25年度			26年度			27年度		
	件数 (人)	面積 (ha)	金額 (千円)									
買入	13	7.6	24,747	9	2.7	8,338	17	10.6	27,535	13	5.9	18,645
国庫												
単独	12	2.7	14,579	15	4.5	20,618	12	2.3	10,875	7	2.7	11,339
買入合計	25	10.3	39,326	24	7.2	28,956	29	12.9	38,410	20	8.6	29,984
売渡	9	5.0	16,948	10	2.8	7,930	11	8.0	21,400	19	7.6	24,396
国庫												
単独	16	5.8	28,069	16	4.2	20,070	11	2.6	12,161	6	2.6	9,278
売渡合計	25	10.8	45,017	26	7.0	28,000	22	10.6	33,561	25	10.2	33,674

(3) H25年度以前の旧制度の借入・貸付実績

ア 市町村毎の賃貸借事業実施状況 (H27年度末ストック)

市町村名	貸借の計 (干拓地は含まない)												中海干拓地関連	
	岡野農場関連			アグリ研修生関連			その他の農家							
	借入	貸付	面積	借入	面積	借入	貸付	面積	借入	貸付	面積	貸付	面積	
1 鳥取市	5	2	5.6	-	-	4	1	2.3	1	1	3.3	-	-	
2 八頭町	3	4	24.8	-	-	-	-	-	3	4	24.8	-	-	
3 倉吉市	37	9	139.3	36	134.5	1	1	4.8	-	-	-	-	-	
4 北栄町	9	5	36.4	3	9.9	2	1	1.3	4	3	25.2	-	-	
5 琴浦町	52	10	155.9	50	138.2	-	-	-	2	2	17.7	-	-	
6 米子市	79	28	133.4	32	73.1	7	2	7.9	40	16	44.4	-	-	
7 境港市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	6.0	
8 伯耆町	13	4	79.9	13	79.9	-	-	-	-	-	-	-	-	
9 大山町	44	63	1,600.1	17	153.9	1	1	3.1	26	52	1,443.1	-	-	
10 日南町	2	2	538.4	-	-	-	-	-	2	2	538.4	-	-	
11 江府町	32	13	449.9	32	449.9	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	276	140	3,163.7	183	1,039.4	15	6	19.4	78	80	2,096.9	2	6.0	

※ 市町村別賃貸借事業実施状況の干拓地関連の数値は全体数値の内数。

イ 事業区分別実績

区 分		件 数		面 積	賃借料	備考
		借 入	貸 付			
国庫事業 A	一括前払 (賃借料は年額)	人 8	人 24	ha 128.5	千円 3,119	
	年払	208	87	158.1	9,672	
単県事業 B	年払	60	29	29.7	1,063	
総計(A+B)		276	140	316.3	13,854	

※ 事業区分

- 国庫事業
認定農業者等が、おおむね 1ha 以上経営地を団地形成し、6 年以上の利用権設定で農地を集積した場合の支援を行った。
賃借料一括前払い資金は、全国協会より無利息資金の借入れを行い実施した。
- 単県事業
担い手支援事業の要件に該当しないが、機構の事業介入が必要な場合に支援を行った。
事業に必要な業務費は、県より補助を受け実施した。

IV 中海干拓農地に関すること

1. 実施状況

- ① 県と共同で設置している「中海干拓地営農再生協議会」において、関係機関と連携しながら業務を推進した。
- ② 干拓地の貸し借りは、H25年度契約案件(旧合理化事業扱い)について実施し、売買については、農業経営基盤法に位置付けられる特例事業より実施した。

2. 県有中海干拓農地の維持管理（委託）

予算額 2,969 千円(県単独 2,969 千円)

実績額 2,648 千円(県単独 2,648 千円)

県有中海干拓農地の維持管理を県より委託を受けて行った。

区分	内容	金額(千円)	備考
県有中海干拓農地 管理費	県有農地 24.1ha の管理費 草刈り等	2,648	人件費 1,259 千円 業務費 180 千円 草刈り 1,209 千円

- ① 日常管理として、特に未貸付農地が適切な状況で維持されるよう巡回し、不法投棄、雑草の状況などの点検と確認を行った。
- ② 干拓地を借受ける農家に対し、現地や電話での相談や、不具合・苦情等を聞いた上で、関係機関と協議し農家を支援した。
- ③ 未貸付農地について、すぐに利用可能な水準で管理し、隣接地に雑草被害が生じないように、耕耘・草刈・除草の維持管理を行った。

3. 販売・利用促進対策（補助） 予算額 4,756 千円(県単独 4,118 千円、機構 638 千円)

【実績額 4,875 千円(県単独 4,308 千円、機構 567 千円)】

干拓農地の利活用(貸付・売渡)と再生の促進を図った。

区分	内容	金額(千円)	備考
利活用促進活動費	農地・農家情報の収集及び 権利調整	4,875	人件費 4,190 千円 事務費 685 千円

4. 中海干拓農地の貸借

(1) 県有干拓農地の貸付け

区分	貸付件数(人)	貸付面積(ha)	賃借料(千円)	備考
弓浜工区	2	0.6	48	
彦名工区	-	-	-	

(2)農家有干拓農地の貸付け

区分	借入件数(人)	貸付件数	貸付面積(ha)	賃借料(千円)	備考
弓浜工区	3	1	5.9	528	
彦名工区	5	4	2.7	229	
合計	8	5	8.6	757	

※ 弓浜工区は(有)岡野農場、彦名工区はアグリ卒業等へ、農地中間管理事業で貸付け。

5. 県保有地の売買 【特例事業に計上】

弓浜工区で、ベビーリーフの栽培を予定する認定新規就農者へ売渡しを行った。

彦名工区で、栗の栽培を予定する退職帰農の農家への売渡しを行った。

区分	件数	面積 (10a)	金額 (千円)
弓浜工区	1	3.0	2,040
彦名工区	2	16.1	4,724
合計	3	19.1	6,764

6. 中海干拓地の再生工事【農業基盤整備促進事業を活用 実績額 5,040 千円】

弓浜工区で、花木が山林化し耕作放棄地となっていた 1.2ha(4 筆)の農地を、農業基盤整備促進事業を活用し再生した。

対象ほ場	工事内容	事業費	工事委託先	工期
中海干拓地 308、311、312、 313	・スプリンクラー 配管整備 ・暗渠排水の設 置	5,040,000 円	(有)岡野農場	着工 H27 年 4 月 2 日 完成 H27 年 6 月 11 日

7. 今後の課題

(1)老朽化によるスプリンクラー設備の破損が頻発しており、農地利用を進めるうえで苦慮している。

(2)干拓営農組合が耕作者を把握しておらず、改良区も3条資格者の整理ができていないため賦課金の未納等の課題が顕在化している。